説教20220814エレミヤ23：23-29ルカ12：49-56「火のような御言葉」

「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言っておくが、むしろ分裂だ。」この御言葉も、私たちが聞くべき主イエスの御言葉です。しかしこの御言葉だけを取り出して聞かされたら、如何にも平和の源であり慈しみ深い主イエスの御言葉ではないかのように聞こえることでしょう。御言葉というのは、受け入れやすいことだけを選んで聞き、今日のような御言葉は読み飛ばす、ということをしていますと、ますます御言葉の意味するところが分からなくなってしまいます。

御言葉に聞き従って行くということは、聖書に記されている御言葉を丸ごと、そのまま受け入れて、私たちの地上の一歩一歩の生活に、忠実に適用していくということでしょう。

実のところ、今日のこの御言葉は、語るのに優しくはない内容をはらんでいます。今のシーズンによく行われています平和記念集会などでは、あまり取り上げられない聖句かと思います。しかしこの御言葉をよくよく黙想していきますと、主イエスがこの地上にまことの主の平和をもたらすために命を賭けておられることがよくわかって参ります。それは今日の御言葉にも表れていまして、50節「しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。」とあります。つまり主イエスは、御自分が火を投じたことによってこの地上に生じた分裂の火の手を、先ずもって、御自身の十字架の受難と死によって鎮火し、それを終わらせるという覚悟があって、事実その通りになさったわけなのです。

そういうわけで、主イエスの御言葉が、この地上に分裂をもたらすためにやって来たということは、主イエスの十字架での死と、それに続く復活という出来事に欠くべからざるプロセスであると言えるでしょう。

分裂と言いますと何か悪い印象が付きまとってしまいますが、そのことは「対立して別れる」という訳語によっても増幅されてしまうようです。対立してという訳語は、ギリシャ語の前置詞エピを訳した物ですが、まあ、対立してと訳すのも、間違いではないですが、エピという前置詞は幅広い意味を持っていまして、例えば、主の祈りで「御心の天になるごとく地にもなさせ給え」という祈る時の地にも、の、にも、というのもエピでありまして、ここでは天と地とが向き合ってというような意味合いになっている訳です。

ですから、53節

父は子と、子は父と、／母は娘と、娘は母と、／しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、／対立して分かれる。」と主イエスが言われましたが、そんなに人間的な敵意を強調しないで、父は子と、子は父と、／母は娘と、娘は母と、／しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、分かれる。という様に、対立して、を、省いてシンプルに読む事も出来るかと思います。

といいますのは、分かれ、というのは必ずしも、対立した別れになるわけではないからです。全ての人間は時が来れば、この地と天とに分かれて住むことになりますし、その別れの時が、本当に主イエスに祝され、よしとされるならば、その別れの時は喜びの時となることでしょう。

　聖書は、全体としてみれば、光と闇を分けることから始まり、その分けることを主なる神はよしとされたのですが、そして主イエスのもとですべての人や物が和解し一つとされることで終わるのです。その分裂から一致に至るプロセスの中で、人間は、火によって精錬され、忍耐させられ、苦しむことが記されています。それは愛するということにも必然的に伴うことであって、有名な聖句で言いますとロマ書の5章 4節からに

忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。希望はわたしたちを欺くことがありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

と記されています。

そうは言いましても、私たち人間が対立して別れることに伴う苦しみは現実的で、とても深いものですし、それはそれぞれの人が具体的に感じる個々の現実であります。ですから、私たちは苦しみ全般を語るのではなく、個々の人が背負わされた苦しみを具体的にみて、それを共に味わう方が良いでしょう。

先ず、イエス様が御言葉をこの地上で人々に語られた時代の人としてパウロのことを見ていきましょう。パウロは、ダマスコ途上で「サウル、サウル、なぜ、わたしを迫害するのか」という主イエスの御言葉を聞くまでは、サウロと呼ばれた、生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人だったのです。しかし、主イエスの言葉を聞いて、彼は生まれ変わり、血のつながった親族から分かれました。パウロ自身は、「キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくたと見なしています」と語り、肉親と別れたからといって、それがどれほどのものかと言っていますけれども、パウロに去って行かれた肉親の側からしてみれば、そこには計り知れない苦しみがあったことでしょう。同族意識が強いユダヤ人の共同体の中で、彼らは周りからも白い目で見られたに違いありません

又、現代に目を向けますと、今、将に「一つ家に五人いるならば、三人は二人と、二人は三人と対立して分かれる」といった家族の状況がいたるところに見られます。

一人の若者が教会を訪ねて来られました。彼は「私は、家族と縁を切っているので、家族に頼ることも、連絡を取ることも出来ません」と言われました。彼の今抱えている苦しみは如何ばかりかと思います。

主イエスは、この地上を人として人と共に歩まれた方です。かつ神として今も天にいて、私たちに御言葉を聞かせて下さる、生きている存在です。生きている主イエスです。ですから神でありながらも、私たち人間の個々の具体的な苦しみの一つひとつを知っておられ、それに誰よりも共感し、救いの言葉を投げかけられる唯一の御方であります。

ヘブライ人への手紙４章15節に記されています様に、主イエスは、私たち人間と同様に試練に遭って、そうして誰よりも苦しまれましたので、私たちの弱さゆえの苦しみに誰よりも同情出来るお方であります。

事実、教会を訪ねて来られたその青年の苦しみに、完全に寄り添えるのは主イエスだけです。ですから、私は心では青年の苦しみに同情しながら、言葉では、イエス様を信じ、御言葉によって救われましょう、しか言えませんでした。

火のような御言葉、それは主イエスの御言葉をまるごと聞く場合、慈しみ深い御言葉と共に聞かないではいられない御言葉であります。今日のエレミヤ書の箇所に、偽りを預言する預言者の話が出て参ります。「わたしは夢を見た、夢を見た」と言って彼らが語った神の御言葉の内に、火のような御言葉は含まれていたでしょうか。彼らは人間的な思いに迎合して、甘い夢を解き明かし、人々に主なる神を忘れさせたのではないでしょうか。

偽りの預言者と、本当の預言者を分けることは、思いのほかに難しいことです。エレミヤ書の28節に、もみ殻と穀物のたとえが出て来ますが、偽りの預言者はもみ殻のように空っぽであり、本当の預言者は豊かに実らせる穀物の様だというのです。しかし、人間の力で、もみ殻と穀物を完全に分けるのは出来ないことだし、事実、教会には最後の最後の時まで、もみ殻と穀物とが共存するのだと聖書は語っています。それが有名な毒麦のたとえで語られている事であります。

では私たちが、教会で忠実に御言葉を語り、御言葉が忠実に聞かれるにはどうすればよいのでしょうか。その一つの証しが29節に記されています。

このように、わたしの言葉は火に似ていないか。岩を打ち砕く槌のようではないか、と主は言われる。

そうです、私たちは火のような御言葉によって自分自身が打ち砕かれる時に、御言葉によって分かたれ、救いの道を前に進むことが出来るのです。

では再び、「父は子と、子は父と、／母は娘と、娘は母と、／しゅうとめは嫁と、嫁はしゅうとめと、／対立して分かれる。」という主イエスの御言葉、そしてパウロの親族の苦しみ、そして「家族と縁を切っている」と言わざるを得ない若者の苦しみに、思いを致しましょう。

対立して分裂している人々の中で、主イエスは苦しまれました、その苦しみは十字架の受難で、最高潮を迎え、主は対立している人のように殺され、死なれました。しかし同時にイエスは主なる神と和解し一つであったので、生きてよみがえられました。

この世的な刷り込みは、死ぬこと＝悪であり忌まわしいことであります。ですから死んで別れるという出来事が、この世にあって、対立という人間的な敵意を引き起こすことは実に簡単なのです。主イエスはそんな人間的な敵意に満ちた苦しみの世の中に敢えて身を置かれ、誰よりもその苦しみを身をもって味わわれました。そしてその身を十字架上で打ち砕かれたのです。

私たちはキリストに倣って、火のような御言葉を信じて、我が身が打ち砕かれる時、同時に私たち人間の間にある敵意をも打ち砕かれます。

エフェソの信徒への手紙/ 02章 14節から

実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

この様に、私たちの敵意が見事に十字架上で打ち砕かれる時、死という別れは、私たちにとって、対立して別れることではなくて、全く違った、平和の裡に一つとされるための別れになることが、このことも又主イエスの御言葉によって知らされるのであります。

私たちは、新たな一週間の一歩一歩を、常に主イエスの御言葉に恵まれて歩んで参りたいと願います。

祈ります

天の父よ

あなたの御言葉は火のように私を打ち砕きます。しかし、打ち砕かれるのは、死にいたる罪であり、十字架の苦しみの後に、永遠の喜びに至る希望があることを信じます。

あなたは、私たちの間にある敵意をも打ち砕かれます。どうか、私たちがかつての敵意に囚われて怒りと嫉妬の道を歩むことを止め、あなたの慈しみの道を歩むことが出来ますよう、御言葉によって私たちをつくり変えて下さい。

どうか、私たちが今の世にあって、死ぬことの恐れから解放し、敵対ではなく和解の道を歩んで行けますよう、導いて下さい。恐れによって生ずる、無慈悲、孤独、暴力、破滅から私たちをお救い下さい。

どうか私たちが次の世代に、あなたの御言葉を語り継いでいくことが出来ますように。あなたの御言葉の力強さを以って、私たちの宣教の業を支え、前へ進めて下さい

父と聖霊とともに一体